

平成27年度 学校法人三幸学園 広島医療秘書こども専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 飯島 英和

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長

【医療秘書科】田中里奈 【こども総合学科】寺岡義行

1. 学校の教育目標

素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献できる人材の育成。

相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材の育成。

皆から信頼・感謝され、こどもの未来を育む人材の育成。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

主体性を持った生徒の育成。そのためにアクティブラーニングを効果的に取り入れ、インプット・アウトプットの習慣化を図る。また原田式メソッドによる目標設定・管理の浸透により自己成長意欲の醸成を図る。

組織(三幸学園)の掲げるミッション・ビジョン及び目指す育成人物像を全教職員に対して理解・浸透を図る。

医療・保育業界との連携の構築および現場実習等による実践的学習と、パワーポイント等視覚教材の活用による学習理解度の深化。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

医療・保育業界との連携を深め、業界の求める人物像を的確に掴み教育目標、育成人物像に反映すること。

またそうした”社会が求める人物像”を学生および保護者へ更に周知し、それに伴う教育への理解を更に深めること。こと保護者においては授業、実習、学校生活等に対しより一層の理解と協力を得ること。

② 今後の改善方策

医療・保育業界への訪問・面会等を増やすこと。本校教育への理解と連携構築へのアプローチをする。

学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会等において各関連団体からの意見や助言を教育に反映さ

せていく。

③ 特記事項

特に無し。

④ 学校関係者評価委員会コメント

【医療秘書科】

学校の理念・目的・育成人材像について、学内での教員からの周知、学内掲示や学生向け・保護者向けの発信があり、折に触れ認識する機会があった。

医療機関での当校の卒業生は、教えたことは完璧に遂行しミスも多くない。医療事務の基礎もできている。ただ、現場が求める適切なコミュニケーション力(会話力、文章力)に若干の課題を感じる。

また、卒業前の学生が就業に対し不安に感じることは多くが「専門知識の不足」を挙げるが、実際就業するとそれよりも「ビジスマナー」や「对患者、対職員との対応力・適応力」などソフト面で経験が足りないということを感じる人が多い。「相手のこうして欲しいを理解し考え動ける人材」という教育目標を実現させるのであれば、これら要素をより一層教育過程に組み込むことも必要と感じる。

医療現場のニーズ変化として、新たな職種(医師事務作業補助者等)が増えている傾向があるが、医療機関によっても差があるため、各医療機関のニーズ把握に努めることが肝要である。

また、就職活動時、学校に寄せられる求人数が少ないと感じたところもあり、求人獲得に向けた学校としての対策も検討の余地がある。

様々な高校等を出身し入学・通学している学校の特性上、個々の能力や特性を十分に把握したうえで、専門学校に通っている期間で、社会・周囲に適応できる力を身に付けさせて頂けると、安心して進学への後押しをすることができる。

【こども総合学科】

保育に対する情熱や人への優しさなど、教育目標に沿った人材育成、マナー教育はしっかりとされている。また現場において子供たちや職員との距離感をつかむことが上手な学生が多く、日ごろの教育の成果を感じられる。

自分が経験してきた親との関係性と、現在の子供達と親との関係性の違いに戸惑いながらも職員に相談しながら努力している。

保護者においては、放任主義な方と過保護ともとれる方と両極端な傾向があり、学校側が連携を取りながら学校の理念や方針を理解させることが重要。

保育現場における「こどもの質」はそれほど変わらないが、周囲の環境が大きく変化しており、家庭で十分な愛情を受けていない子が精神的に不安定になることも多い。保育現場は「こどもが安心して過ごせる環境」となることが求められており、学校が掲げる教育目標は現場のニーズとも合致していると考えられる。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1

人事、給与に関する制度は整備されているか	4	③	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	③	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	②	1

① 課題

運営に関する意志決定機能は、職務権限により明確化されているが、都度教職員間の相互確認や上長への相談と指示命令によるところが大きい。

情報システムに関する専門知識を持った教職員が少なく、学園本部のシステム担当者への問い合わせが多い。そのためシステムトラブルにおける業務の遅滞が散見する。

② 今後の改善方策

内規により明確な運営規則の制定と教職員間の周知徹底を図る。また共通認識を持てる運営マニュアルの作成を行う。

学園本部に新たに設置されたシステム開発室およびサポートデスク(ヘルプデスク)との連携を深めシステムトラブルの防止及び発生時の対応を速やかに行い教育活動の遅滞をなくす。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

【医療秘書科】

教育活動に関する情報公開は、WEB掲示板にて行われており、学生・保護者へタイムリーに情報発信がなされていた。また学校の公式ホームページにおいても適宜学校での出来事を公開されており、情報はそれらから得ることができている。

【こども総合学科】

特になし。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	②	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が	4	③	2	1

体系的に位置づけられているか				
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	②	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	②	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

医療・保育業界との連携が十分とは言えない。

② 今後の改善方策

教育課程編成委員会を発足させ、関連業界委員の意見を集約している。今後はより具体的に教育活動への還元及びより実践的、体系的な教育課程の編成に向けて検討を進めるところである。

現在インターンシップ実習等により連携を図っている業界団体と、より密な連携を継続的かつ定期的に行うため、意見交換会の実施や、学生の事例研究発表への参加要請などを行う。

また、教職員への専門分野における知識・技能を習得するための研修を実施した。今後はそれらを実際の教育現場においてアウトプットしていく。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

【医療秘書科】

学校での学習(教科)が必ずしも全て現場の業務に直結しているものばかりではない、というところを感じる。専門知識はベースになるところであり、一方で接遇や対応力を身につけるカリキュラム、様々な医療機関ごとに求められる医療事務の(病院に特化した)知識等、これら実践力を習得できるカリキュラム編成が望ましい。

とはいえ、それぞれの医療機関において新人に求める能力は違いがあり、全てを網羅するのは難しい。学校で学ぶ専門知識にも限界があり、完璧に身に付けて入職するとまで行かずとも基礎をしっかりと身につけ、あとは職場の特性に応じてさらに勉強をする姿勢が大事。ただ、どの職場においても必要なのは職員間および患者様とのコミュニケーション能力や臨機応変さ、周囲との協調性、そして前述した学び続ける意識、これらである。常に新たな知識を吸収する姿勢・意識は就職後もとても大切。

現場で求められるコミュニケーション能力・臨機応変さ・協調性等については、在学中の取り組みの中でも学校行事など授業外活動によるところは大きい。それらの経験や、プレゼンテーション等の経験を積む授業の中で、自分の意見を相手に伝えることが学べる。とはいえ、それらを不得意とする学生に対するフォローも必要である。

学外実習については、医療機関側にとってもプラスになることもあり、また学校で得た知識を現場に必要な実際の知識と紐づけすることができ、自分の課題にも気づくことができる貴重な機会である。

【こども総合学科】

保育現場においては、自ら調べ、意見を発することができる力、時間配分を組み立てる力、丁寧に文字を書

く力(国語力)、相手に伝わる話し方が求められる。また、子ども・保護者・利用者等との適切なコミュニケーション力、福祉の思想や施設の方針、施設の概要など働く上で最低限必要な知識を事前学習において身に付けてほしい。

画一的な教育方法では、正解のみを提示する形になり、思考する過程から最も適切な回答(言動)に紐づけすることができなくなる。授業、課外活動、実習棟においても様々な主体的行動を経験をさせることが必要。

上記の力を身に付けさせるために授業内でより多くのケースワークを取り入れ、実践的学習を増やしていくことを求める。

また、外部での研修へ参加を促し、多様性の理解や視野を広げる努力が必要。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

退学率においては低減のための様々な取り組みを行い一定の成果が出ているものの、より一層の成果を出すための新たな取り組みなど、現状に対し改善の余地がある。

卒業生・在校生の社会的な活躍・評価を把握しきれていない。

② 今後の改善方策

入学前の学生および保護者への事前説明と学校方針への理解を求めるためのガイダンスを実施する。

クラス担任による学習成果および学校生活の様子把握と、教科担当への情報提供また教科担当からの情報収集により、学生のモチベーションの変化や細かな動向の変化をタイムリーにキャッチし、退学防止に努める。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

【医療秘書科】

現場での離職率は高い状況にある。院長や院の方針と考え方が違うことで退職に繋がるケースもある。入職して数か月で辞められるのは現場としてもマイナスは大きく、入職前と後のギャップを埋めるための就職指導や、困難に対して踏ん張る力など、仕事を続けていくことでその後の成長や社会への貢献に繋がることの指導を求めたい。

ただ、卒業後も就業環境に対する不安や悩みに対し学生時代の先生が相談にのってくれている面もあり、卒業後のフォローアップ体制は適切に取られていると感じる。

また、退職が全て悪いわけではなく、退職に至る事情は個々に違う。退職する際の手続きや方法を間違えることでトラブルになるケースや出身校の印象にも関わることもありえるため、学校でも退職や転職に対する指導

ができると良いのではないか。

【こども総合学科】

保育・幼児教育を通して、世の中の見通しや社会の展望など、こどもたちに「正しい情報を伝える」役割を持つ立場として、どんな場面においても一社会人としてあるべき姿であってほしい。そのためには、自分の中で「保育」に対する明確な考え、職業観とこどもに影響を与えるという職責について理解できる人であってほしい。また「遊び」を通じてこどもの主体性やこどもたち個々の特性に応じた活動が展開できる保育者人になってほしい。

また、保育や福祉の現場においては、仕事へのネガティブなイメージ(俗に言う3Kなど)が持たれがちで、その道へ進むにあたり周囲の大人たちからの反対に合うことも多いと聞く。給与や待遇といった側面だけで仕事を判断するのではなく、働くことの本質(やりがい、意義など)を理解して社会に出られるよう、学校教育に取り組んでほしい。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

学生の健康管理については学生本人の自己管理によるところが大きく、万全とは言えない。

卒業後の継続的な学校との連携は教員個人によるところが大きい。また卒業生のキャリア形成を促進・補助するシステムが学校としてはできていない。

② 今後の改善方策

年度初めの健康診断結果により、万が一の体調不良や継続的な治療の必要有無把握など学校側の管理体制を強化していく。

卒業後の継続的な学校との連携は教員個人によるところが大きい。また卒業生のキャリア形成を補助するシステムができていない。

ボランティアや部活動・サークル活動など課外の活動による多様な人間教育にも目を向けていく。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

【医療秘書科】

就職活動をするにあたり、教員への相談や助言によって前向きに取り組めている様子があった。学校に寄せられる求人が少ないという現状の中で、求人サイトの紹介や活用方法の助言、また個々人に合ったサポートを提供されていた。

また、保護者との連携においては、必要に応じた電話連絡や、学校行事の見学、また成績通知と共に担任からの所見等が添えられており、適切な関係が築けていたと思う。

【こども総合学科】

保育職の求人は非常に多く、人手不足は深刻である。ただ、資格を持っていれば誰でも採用するというわけではなく、やはりそれぞれの園・施設が求める人材を一人でも多く社会に輩出してもらいたい。

また、現場においても保護者の特徴は近年顕著に変化が見られている。専門学校や大学・短大も同様に親の愛情不足と思しき学生や、逆に依存の強い(独り立ちできない)学生も見受けられる。こどもに対して親代わりとなって保育ができる保育者を育成し、現場へ紹介していただけるようサポートをお願いしたい。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

【医療秘書科】

特になし。

【こども総合学科】

特になし。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

特になし。

④学校関係者評価委員会コメント

【医療秘書科】

特になし。

【こども総合学科】

特になし。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

特になし。

④学校関係者評価委員会コメント

【医療秘書科】

特になし。

【こども総合学科】

特になし。

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

特になし。

④学校関係者評価委員会コメント

【医療秘書科】

特になし。

【こども総合学科】

特になし。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

教育資源や施設を活用した社会貢献として、地域の親子を対象とした子育て支援教室を実施しているが、対象者の拡大や、内容の充実なども検討の余地がある。

公開講座、教育訓練の受託などは未実施。

(関連企業への施設貸し出しのみ適宜依頼に応じて実施)

② 今後の改善方策

地域へ開かれた学校として、積極的に情報公開、施設貸し出しなどを実施する。

③ 特記事項

特になし。

④学校関係者評価委員会コメント

【医療秘書科】

特になし。

【こども総合学科】

子育て支援教室は「地域貢献」としても「実践力の育成」においても非常に良い取り組みであると評価できる。

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2

受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	①
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	①
学内で適切な体制が整備されているか	4	3	2	①

① 課題

留学生の受け入れ実績がないため、課題及び方策については不明。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

【医療秘書科】

特になし。

【こども総合学科】

特になし。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

財務及び学校運営においては概ね健全と思われる。

本校の最も大きな課題は、職業教育機関として医療・保育業界との連携が不十分であるということである。

また、卒業生との関係継続が十分ではないことも挙げられる。

医療業界との連携においては、本校学生における実習及び就職実績のあるところにおいては比較的本校教育への理解は高いと考える。しかし、今後職業教育を強化するためには本校教育活動への積極的な参加要請(協力依頼)や、本校教育への理解を深めるための新たな働きかけ、工夫・改善が必要である。

保育業界においても同様で、年々変化する保育ニーズ(保育する側、保育を受ける側それぞれ)に対応するための知識の吸収は教職員において必須と考える。また、非常勤講師に現在保育現場で勤務している人を招聘し、情報の収集にも努めたい。

本校では平成 27 年度より教育課程編成委員会、学校関係者委員会を発足し、各関連業界の方や、卒業生、保護者等による本校教育への課題、提案などを収集している。今後それらをもとにより一層教育課程及び教育活動の見直しを図っていきたい。

卒業生との関係については、医療・保育分野の業界特性でもある人員の入れ替わり(退職や転職・転籍)が多い事が継続的な関係の構築の障壁になっていることがあげられるが、卒業生勤務先への定期的な訪問や情報収集を積極的に行うことによって、関係の構築に努めていきたい。